

まえがき

彦根市教育委員会 教育長 善住 喜太郎

彦根市および彦根市教育委員会では、子どもたちが文化芸術活動を通して自己表現できる機会を提供するとともに、子どもたちに文化芸術を体験し興味をもってもらい、豊かな心と感性を育て、将来の文化芸術活動の後継者を育てることを目的とする『ひこね子ども文化芸術奨励事業』を、平成二十二年度から実施しております。

その事業の一つとして、日本語の持つ言葉本来の美しさを感じることで、子どもたちの豊かな表現力（考える力・書く力・伝える力）を育むことを目的とした「第九回 ひこね子ども芸術作品」を実施し、俳句、川柳、短歌、詩の作品を募集いたしました。

今年度は、延べ三、一六二人の子どもたちから、五、〇九三点もの作品が寄せられました。昨年度と比較して、応募者数ならびに応募点数が減少したことは誠に残念ではありますが、素晴らしい作品を多数応募いただきましたことを大変うれしく思っております。

皆さんの作品を拝見しておりますと、みなさんの枠にとられない自由な感性やものの見方、捉え方に興味が尽きないと同時に、年齢を重ねるとつい見過ごしてしまうようなキラキラとした感情が蘇ってくるようで、楽しく拝見させていただきました。

今回「ひこね子ども芸術作品」で入賞された作品は、「自分らしさ」を作品の中にもうまく織り込み表現されたものが多かったのではないかと思います。文字数の制限がある俳句や川柳、短歌はなおのこと、生活の中で感動した（心が動いた）ことを一種のリズムを持つ言語形式で整えて表現するといふことは難しく、労力のいることであると思えます。表現を整える創作にあたってのノウハウの部分は夏休みに行っております「夏休み文芸ワークショップ」でぜひ学んでいただきたいところですが、物事に心を動かされる「感性」を磨くためには、物事を当たり前に受容するのではなく、別の視点を意識してみたり、いかにありふれた日常からの些細なことに意識をして感動や発見を見いだせるかということだと思えます。

今回の文芸作品の創作をされるなかでそういったプロセスを経られたと思いますが、多くのことを素直に感じ、考え、そして、しっかりと表現できるといふ言葉で自分を蓄え成長されますことを、心から期待しております。

最後になりましたが、彦根文芸協会の皆様には作品の審査をはじめ、夏休みには「夏休み文芸ワークショップ」の講師をお引き受けいただくなど、彦根市における新たな文芸活動の人材育成のために多大なるご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

これからも、明日の彦根を担う子どもたちの健やかな成長を、温かな目で見守っていただきますよう、関係各位の皆様にお願ひ申し上げ、発刊に寄せる言葉とさせていただきます。

平成三十一年三月